

地域の農地と交流をつなぐ取り組み ～なかるくマルシェと体験農園～

地域おこし協力隊 任期中盤 活動報告
福知山市 中六人部地域



自己紹介



高橋 恭子 (たかはし きょうこ)

- 大阪府出身
- 農業に関わる経験 約10年
- 2024年11月 福知山市へ移住
- 地域おこし協力隊として活動を開始

現在は任期の中盤に差し掛かり、地域の皆さまとともに関係づくりと実務を進めています。



中六人部地域での取り組み

現在の活動は、大きく二つの取り組みを中心に進めています。

地域の農地と 交流を守る

なかるくマルシェ

- 地域の農産物の発信
- 人が集まるきっかけづくり

体験農園

- 農地の活用
- 継続的な地域交流

なかるくマルシェの歩み

地域の方が気軽に参加できる交流の場として
開催を継続。

- 地域交流を目的としたマルシェ
- 地元野菜や手作り品の販売
- 累計 **26回** 開催予定 (3月7日・8日開催時点)



マルシェ開催場所： the610base

いちご狩りを中心とした施設に、
多くのお客様が訪れています。

- 年間来場者数：約1.4万～2万人
- 観光客や地域外からの来訪者が多数
- 集客を地域の農産物や活動につなげる大きな可能性



開催を重ねて見えてきた課題

せっかくの来訪者（集客）を、
まだ十分に活かしきれていません。

- 出店が「出せる人が出せる時に
出す」不規則な形
- いちご狩り来客のピークと開催日
が必ずしも一致しない
- 団体メンバー中心の出店による
広がりの限界



なかるくマルシェの新たな形（4月～）

来客のタイミングに合わせ、より効果的で継続できる体制へ見直します。

- 来客の多い日に合わせた開催スケジュールの調整
- 地域でモノづくりをする「個人出店者」の募集開始
- 出店料を設定し、無理なく継続できる運営の仕組みづくり



新たな挑戦：体験農園の立ち上げ

着任時のミッションとして位置づけられていた事業。

- 当初：「なぜ体験農園なのか」目的を模索するところからスタート
- 現在：農地を守る有効な手段の一つとして強く認識
- 目標：やるからには、少しでも地域に何かが生まれる場所にしたい

現在の準備状況

オープンに向け、具体的な整備と利用者募集が動いています。

- 畑の土壌分析実施、大まかな測量完了
- 業者による区画割り（3月20日完了予定）
- 利用者募集チラシの新聞折込配布（中六人部全域、駅周辺、前田、石原地域）
- 地域協力者を継続して募集中



中六人部体験農園（仮称） の全体像

野菜づくりを楽しみながら、利用者同士
や地域との交流が生まれる場所へ。

- 全 35区画（1区画 約38㎡）
- 今後の整備：通路、水タンク、農機具保管場所、休憩スペース
- オープン予定：2026年4月



今後の展開と目指す未来

二つの取り組みを通し、人が集まる仕組みを育てていきます。



【交流】 なかろくマルシェ（累計26回開催）

- 個人の挑戦を応援し、集客を活かした継続的な運営へ

【農地活用】 中六人部体験農園（35区画・2026年4月オープン）

- 地域の農地を守りながら、人がつながる拠点へ

引き続き、地域の皆さまと一緒に取り組みを進めてまいります。